

# 小学校 道徳 部会

部会長 中津原小学校 校長 小峠 英人  
実践者 採銅所小学校 主幹教諭 清瀬 浩一

## 1 研究主題

「確かな学力の向上をめざす道徳の時間の学習指導のあり方」  
～心に響く道徳の時間を創る指導方法の工夫を通して～

## 2 主題設定の理由

### (1) 社会の要請と今日的課題から

少子高齢化や核家族化による人間関係の希薄化、価値観の多様化、そして生命を尊重する心や自尊感情が乏しいこと、基本的な生活習慣が身につけていない等、児童を取り巻く状況は、現在非常に厳しいといえる。平成23年度より実施された新学習指導要領は、子どもたちの現状に鑑み「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等の「生きる力」を育むという理念を中核にすえたものである。特に、改訂にあたって充実すべき重要事項の第一番目として「言語活動の充実」があげられ各教科を貫く改善の視点として示された。具体的には、思考力・判断力・表現力を育てるための手だてとしての言語活動の充実が期待されている。また、それらの力が確実に身についたかどうかを見取る学習評価の充実が図られなければならない。

そこで道徳の時間においては、道徳的実践力を持った児童を育成することが求められており、そのために、道徳的価値の自覚を深めること、そして自己の生き方についての考えを深めることが求められている。

### (2) 道徳部会の取組から

本部会では、これまで各学年における年間指導計画の見直しや児童の心に響く資料の選定について研修してきた。また、より効果的な指導ができるように体験や行事、他教科との関連を付け加えた指導計画の見直し、道徳の時間における各題材ごとの指導過程の作成等を行ってきた。さらに、道徳教育の重要性をふまえ、さらなる道徳の時間の充実を目指し、指導方法（指導過程・発問・話し合い・表現活動・書く活動等）の工夫や、体験活動を生かした道徳の時間の工夫を中心的な手だてとして研究を進めてきた。

## 3 主題の意味

### (1) 道徳における確かな学力とは

一人ひとりの児童に「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスのとれた教育を実施することにより、「生きる力」を身につけた総合的な人間力を持った児童が育成されるという認識に立ち、学力を広くとらえることとする。

特に、本部会では、生きる力の核となる「豊かな心」に焦点を当て、これを以下のように定義する。

「豊かな心」とは、人間がよりよく生きたいという願いを持って、かけがえのない自分自身を大切にするとともに、同じくかけがえのない他との関係を大切にしようとする「知・情・意」総体としての心である。

「知」 人間としてよき行為を判断する知性〈道徳的判断力〉

「情」 人間としてよき行為を思考する感性〈道徳的心情〉

「意」 人間としてよき行為を発動する意思〈道徳的実践意欲と態度〉

#### 4 研究の目標

児童の豊かな心を育成するためには、「指導方法の工夫」と「体験活動の効果的な関連のさせ方の工夫」を通して、よりよい道徳の時間の指導の在り方を究明していく。

#### 5 研究の仮説

道徳の時間において、次のような工夫を行えば、児童は自分の心を深く見つめ直すとともに他者への思いを広げ、豊かな心を育んでいくであろう。

- 指導方法（指導過程，発問，話し合い，表現活動，各活動等）の工夫
  - 児童の体験活動を生かした道徳の時間の工夫
- (1) 指導方法（指導過程，発問，話し合い，表現活動，書く活動等）の工夫
- ①資料提示の工夫～共感をかき立て，子どもを道徳資料の世界へ引き込む
    - ア 大型の絵や紙芝居等を用いる方法
    - イ テレビ，プロジェクター，録音等の視聴覚機器を生かす方法
    - ウ 補助資料（実物や写真，効果音など）を生かす方法
    - エ 地域のG T等の参画を得る方法
  - ②発問の工夫～子どもの心を動かし，多様な考えを引き出す
    - ア 子どものこだわりや問題意識が生かされ，生み出される発問
    - イ 考える必然性があり，心が揺さぶられる発問
    - ウ 多様な考え方が生かされ，引き出される発問
  - ③話し合いの工夫～子ども相互に多様な考えを学び合い，深め合う
    - ア 心の様子や考えの立場の色，類別，グラフ等による視覚化
    - イ 多様な意見，きっかけとなる意見を引き出す意図的指名
    - ウ 座席配置で立場を鮮明にする工夫
    - エ 全体討議やグループ討議等の形態の工夫
  - ④表現活動の工夫～一人ひとりの考えが引き出され，いっそう深められる
    - ア 動作化 動きを忠実にまねをして，実感的な理解を深める方法
    - イ 役割演技 特定の役割を持って，即興的な演技を通して価値追求を深める方法
    - ウ 劇化 台詞や演技の真似をして，状況や心情を感じ取る方法
    - エ 疑似体験活動 セットされた条件の中での追体験的な活動
  - ⑤ 書く活動の工夫～個別化の中で個性的な考え方が深められる
    - ア 吹き出しを取り入れた形式
    - イ 自分のことを伝える手紙・アドバイス形式
    - ウ 作業的，ゲーム的な内容を盛り込んだ形式
    - エ 絵や記号等を使って書く形式
  - ⑥ 板書の工夫～子どもの思考を深める共通の「道徳ノート」を生かす
    - ア 話し合いの中心部分をクローズアップした構成
    - イ 意見の違いが捉えやすく，類型化して示された構成
    - ウ 場面絵や顔絵，心情図や心情曲線などを生かした構成
  - ⑦ 「わたしたちの道徳」の活用
    - ア 学校の学習の中で
    - イ 日常生活の中で
    - ウ 家庭や地域で

(2) 体験活動を生かした道德の時間の工夫

① 導入段階～学習の方向をつかみ、「めあて」を設定に生かす

ア アンケートや実態調査票の提示

イ 体験活動場면을VTRで提示

② 展開前段～自分の体験を重ねて価値追求の根拠とし、より実感を持って道德的価値を感得していく

ア 資料と類似場面を日常生活からVTR等で紹介

イ 自分の体験を基に登場人物の心情を追求させるための発問の工夫

③ 展開後段～道德的価値に対しての内面的自覚を促す

ア 自分の類似体験を想起させる発問の工夫

イ 実態調査表による類似体験の紹介

ウ 類似体験の作文による紹介

④ 終末段階～道德的内容を確認し、これからの生き方に発展していく新たな心構えを見いだす

ア 児童の作文の紹介

イ 教師の説話による体験談の紹介

ウ 類似体験の作文による紹介

(3) 副主題「心に響く道德の時間を創る指導方法の工夫」について

○ 「心に響く」とは

道德的な考え方、感じ方が子どもの内面に届き、価値に照らして今の自分はどうかを深く見つめることである。これをもとに、前向きによりよく生きていこうとする意欲や態度が培われることになる。

○ 「心に響く道德の時間」とは

教師が中心資料をもとに、様々な指導方法から価値を子どもと共に追求していく道德の時間のことである。「要」の構成等が明確になされ、ねらいとする価値を子どもの心に響かせ、教師と子どもとで道德の時間を創っていくために、どのような指導方法が直接あるいは間接的に有効であるか、研究を進めていくことにしている。

○ 「心に響く道德の時間を創る指導方法の工夫」とは

いかにして、子どもの心に「よりよく生きることのよさ」を響かせるか。そのために、具体的には上の(1)①～⑦の7つの指導方法に即し、工夫していくこととする。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 主題名「明るい心で」（第3学年）

【中1－(5) 誠実・明朗】

(2) 資料名 「ガラスの心」（出典：学研）

(3) 指導計画

○ 事前指導

・アンケート調査を行い、「いやなことやできないことがあった時は、どうすればいいか」について、考えさせ、多くの児童が「むきにならない」「相談して教えてもらう」と考えている子どもが多かった。しかし、「ただ考える」とだけ思っている子もいることを押さえる。

・音楽の時間や帰りの会に「あの青い空のように」を歌い、詩の内容を押さえておく。

○ 本時

・資料「ガラスの心」を通して、ちょっとしたことで自暴自棄にならないで、自分を省みて、前向きに明るい心で気持ち良く生活しようとする心情を育てる。

○ 事後指導

・児童が本音で語り、ありのままの姿で友達と接しているのは、休み時間やグループ活動の時である。子どもたちの様子をよく見守り、自分たちで解決しようとしたり、励ましたりする場面をとらえて、認めながら、明るい心で学校生活をさせていきたい。しかし、日常の場面で、自暴自棄になり、自分を振り返れない等の場面もあると思う。そのような具体的場面を取り上げて、適切な学習の振り返りをさせたい。また、帰りの会等で、友達に関する事など、具体的な場面を出し合うことで、心の成長を認め合う場を多く作りたい。

(4) 本時のねらい

○ ちょっとしたことで自暴自棄にならないで、自分を省みて、前向きに明るい心で気持ち良く生活しようとする心情を育てる。

〈資料について〉

《あきらのできごと》

大なわをみんなとやっていて、「あきらくんがひっかかった。」と言われ、あきは、「もう、やめた。大なわなんて、絶対やらないさ。」と思う。

《としこのできごと》

男の子がぶつかってきて、ガラスを割ってしまう。「あっ、としこさんがガラスをわった。」と言われ、「もう、いや。わたし学校なんかこない。」といじけてしまう。

《さとしのできごと》

体育の時間ポートボールの練習試合で「何でボールをまわしてくれないんだ。」と言い、試合の途中なのに一人で地面にすわりこんでしまう。

これら3つの話からガラスの心にならないために必要なことは何か考えていく。3人に共感させた後、自分自身や友達に重ね合わせながら、3人はそのままでもいいのか考えさせることにより、道徳的心情に迫れるようにしたい。

(5) 学習指導過程

学 習 活 動	指導上の留意点
1 「もういやだ！」と思ったことを想起する。 ・ゲームで何度やっても成功できなかった ・友達に注意しても聞いてくれなかった。	○ くじけたり、投げやりになったりすることはだれでもあることだという認識を出発点とする。
いやなことがあったら、どうすればいいか考えよう。	
2 資料「ガラスの心」を読み、登場人物	○ 題名の「ガラスの心」とはどのような

の気持ちについて考える。

(1) あきら、としこ、さとしは、それぞれどんなことを考えているのか。

どのような心かを考えさせてから、資料を読み聞かせる。

○ 資料の読み聞かせをし、挿絵を掲示しながら、どのような心かを考えさせながら資料を読み取らせる。

【発問①】

あきら、としこ、さとしは、それぞれどんなことを思っているのでしょうか。

〈あきら〉

- ・しまったどうしよう。
- ・せめるなよ。ちょっとひっかかっただけなのに。
- ・だから、やりたくなかったんだ。
- ・悪かったと思うけど、あやまりにくいなあ。



【あきら】

〈としこ〉

- ・われたガラス、どうしたらいいの。
- ・ひどい。わたしのせいじゃないのに。
- ・わたしばかりせめないで。



【としこ】

〈さとし〉

- ・ずるいよ。パスを回してくれないなんて。
- ・ぼくだって一生懸命なのに。
- ・ちえっ。つまらないなあ。



【さとし】

○ 最も共感できる人物を一人選ぶことにより、児童一人ひとりの体験からそれぞれの気持ちに迫れるようにする。

○ 人物ごとの絵と共に吹き出しカードを貼り、児童の様々な思いを認めあえるようにする。



【児童の思い】

(2) 三人それぞれに、どんなアドバイスをすることができるか考えさせる。

○ 客観的に人物を見つめ直し、自分自身の立場になって、助言ができるようにする。

【発問②】 三人に、どんなアドバイスができるかな。

- ・大丈夫だよ、すぐにあきらめないで。
- ・もう一回、頑張れ。
- ・自分の気持ちを分かってもらえる様に話すといいよ。
- ・落ち着いて、友達の話もよく聞いてごらん。

○ 自分が同じような経験をした時に、どのようにしたかを手がかりに考えさせる。

○ 自分の考えたアドバイスをワークシートに書かせ、友達と交流させる。

・わたしだったら、さいごまでやると思 うよ。	○ 明るい気持ちで生活することがよりよ い生き方につながることに気付くように させたい。
3 「ガラスの心」ならないために必要な 事は何かを考える。	○ 自分の考えをワークシートに書かせ、 板書の「ガラスの心」に重ねて示し、発 表させる。
4 気持ちに合った歌を歌い、学習を振り 返る。	○ 明るく前向きな歌「あの青い空のよう に」を歌い、余韻をもって終わる。

## 7 指導の実際

### (1) 導入について

#### 【アンケートの結果の提示】

アンケート集計	男子5名	女子2名	計7名実施（複数回答あり）
1 今までにいやなことがあった時、投げ出したりいじけたりしたことはありますか。	ある 6人	ない 1人	
2 [ある]と答えた人はどんなことでしたか。	けんか 6人	あそんでいて 5人	
3 いやなことやできないことがあった時はどうすればいいと思いますか。	・できるところまでがんばる 2人	・考える 3人	
	・相談して教えてもらう 4人	・むきにならない 5人	
	・はっきり言う 2人		
4 いじけたり投げ出したりしてしまう人を見て、あなたはどう思いますか	・いやな気持ち 1人	・そっとしている 2人	
	・かわいそう 4人	・たすける 2人	
	・ふしぎ 1人		
5 あなたはどんな心もちたいですか。	・やさしい心 4人	・広い心 1人	
	・くじけない強い心 5人	・怒らない心 1人	
	・らんぼうにならない心 1人		

実態調査の結果から、本学級は小集団であるために、さほどこだわらない児童が多いことが分かったが、ほとんどの児童は自分ががいじけてしまったことを自覚していた。友達と遊んでいる時に、けんかをしてしまうことは、日常よくあることで、「ない」と答えた子どもの中にも、ちょっとしたことでふくれたりすることも見られる。これは、忘れてしまっていることも考えられるが、あまり気にしていない面も見られる。また、できないことやいやなことに対しても、一生懸命がんばろうと思う子どもも多く、自分にとってよい方向に向いていこうとする意欲が感じられる。しかし、そう思っているにもかかわらず実際には、腹をたてたり、いじけたりする児童も見られる。

学級の中にいる、すぐいじけてしまいがちな児童に対しては、「わががままでいやだ」と思いながらも、「かわいそう」とか「たすけてはげましていこう」という子もられ、学級集団としても徐々に人間関係ができてくると思う。【資料1】

心のアンケート  
名前 ( )

\*自分の気持ちに合うものに○をつけよう。

1 今までにいやなことがあった時、投げ出したりいじけたりしたことはありますか。  
・ある ○ ない ○

2 「ある」と答えた人はどんなことでしたか。  
・けんか ○ ・あそんでいて ○

3 いやなことやできないことがあった時は、どうすればいいと思いますか。  
・できるところまでがんばる ○ ・そっぴんして教えてもらう ○  
・はっきり言う ○ ・考える ○  
・むきにならない ○

4 いじけたり投げ出したりしてしまう人を見て、あなたはどう思いますか。  
・いやな気持ちになる ○ ・そっぴんしている ○  
・かわいそう ○ ・たすける ○  
・その他 ( )

5 あなたはどんな心もちたいですか。  
・やさしい心 ○ ・くじけない強い心 ○ ・強い心 ○  
・その他 ( )

【資料1】

## <授業の概要>

(2) 展開前段について

【アンケートの実態調査の提示】



【写真1】

事前におこなった「心のアンケートの集計」を見せることで、友達の考えを知らせた。【写真1】そして、子ども達に「もう嫌だ!」と思った経験を想起させ、くじけたり、投げやりになったりすることは誰にでもあることだという認識を持たせた。

子ども達は、学校の遊びや学習の中から自分の経験と照らし合わせて考えることができていた。

そんな中で、自分の気持ちを素直に出

すように語りかけていった。

【資料の提示】

展開部分では、資料「ガラスの心」の教師の範読を聞かせ、登場人物3人の気持ちを考えさせた。一人ひとりの内容を押さえながら板書に貼ることで、3人の心にある共通の心「ガラスの心」に気付かせていった。また、本文の「大事なことを捨ててないかい」を取り上げ、3人の捨ててしまった大事なことを考えさせることにより、「ガラスの心」のデメリットに気付かせるようにした。

【書くこと・伝えることの工夫】

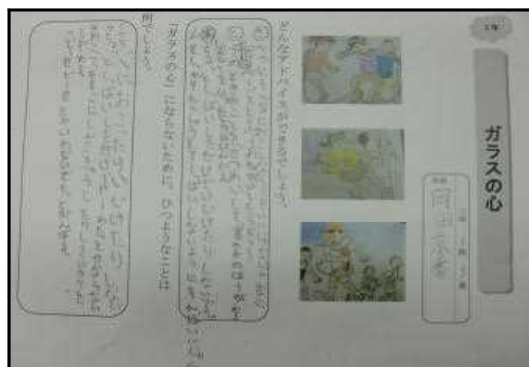
3人の気持ちを書かせ、板書に貼って行って、それぞれ、どのような気持ちでくじけたり、投げやりになったりしたのかを考えさせていった。3人の中で、特にとしこの投げや

りになった理由に同情があつまり、ぶつかった男子に対する怒りも出てきたが、「じゃあ。としこさんは怒ったままの気持ちでよかったのかな」と問いかけた。この問いは、としこに対するアドバイスも考える大きなヒントになった。

### (3) 展開後段について

3人に「どんなアドバイスができるかな。」と問いかけ、それぞれのケースでどんなことをいってやればいいのかを考えさせ、書かせていった。【資料2】

書いた内容を学習のペア交流させ、考えを伝えさせた。その後でクラス全体に伝えるという方法をとった。道徳の学習以外でも日常的に行っているので、自分の素直な気持ちを表すことができたと考える。【写真2】



【資料2】



【写真2】

### (4) 終末段階について

#### 【気持ちに合った歌を歌い。学習を振り返る】

気持ちが晴れやかになれる曲の中から、特に明るく前向きな歌「あの青い空のように」を歌った。子ども達はこの歌を好んでいるので、すぐに楽しい雰囲気になり、明朗の良さが広がっていった。そして授業の終わりは、今までの自分も振り返り、本時の道徳的価値について、感想を言わせた。【写真3】

#### <子どもたちの感想>

- ・気持ちを切りかえて、「ガラスの心」にならない様に気をつけたい。
- ・すぐにおこったりしない心になりたいです。
- ・すぐにあきらめたり、いじけたり、やめたりしないようになりたいです。
- ・素直な心になりたい。



【写真3】

## 8 成果と今後の課題

### (1) 成果

- 事前アンケートをとり、集計の結果を示すことにより、自分だけでなく誰でも「心のガラス」をかかえているという、本時学習の価値への方向付けを行うことができた。その結果、自分を深く見つめることができた。
- 3人に「どんなアドバイスができるかな。」と問いかけ、それぞれのケースでどんなことを言ってやればいいのかを書かせたことで自分自身を深く見つめることに有効であった。
- 話し合い活動の前に、児童同士が、気持ちや考えを伝え合うペア交流を行うことで、自分の考えを整理しそれを発表する手立てとして有効であった。



(2) 今後の課題

- 計画的な時間配分を行い, 中心場面でしっかりと考える時間を確保する必要がある。
- 終末段階では, ねらいとする価値に焦点化した適切な内容を考える必要がある。
- 児童の考えの経過が見とれる効果的なワークシートの工夫
- 「わたしたちの道徳」の有機的活用

◎ 参考文献

- ・小学校学習指導要領解説 道徳編
- ・道徳教育実践ハンドブック (改訂版) 福岡県教育委員会
- ・小学校道徳 「みんなのどうとく」教師用指導書・研究編 学研